

## 研究主題 「対話的な学び」のある道徳科の授業実践

～「発問」と「問い返し」を授業づくりの主軸として～

いわき市立中央台東小学校 教諭 久保木 壮平

### I 研究主題設定の理由

#### 1 道徳科における「対話的な学び」

学習指導要領では道徳科の目標を次のように示している。

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

このような児童の姿は「対話的な学び」を創り出すことによって実現できる。それは単に「活発な伝え合い」ではない。教材や課題との対話、教師・児童同士・学級全体との対話、過去・現在・未来の自分との対話などを通して、自分の生き方について考えを深めていく学びである。

中教審答申(2016)では、道徳科の「対話的な学び」として『道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究するプロセスを重視』するとしており、その例として『自我関与を中心とした学習』『問題や課題を主体的に解決する学習』『道徳的行為に関する体験的な学習』が挙げられている。

#### 2 児童の実態と過去の実践から

担任する学級(5年)の課題には、主に次の2点が挙げられる。

1点目に、発言や話し合いに対する積極性の二極化である。自信が無く「全体での対話」で発言する意欲が低い児童が多く、ペアでの交流は「対話」に至らず「伝え合い」に留まることも多い。積極的な特定の児童による発表だけでは、「意見発表会」に過ぎない。昨

年度1学年を担当した際の「二わのことり(親切、思いやり)」の一場面を挙げる。

**【発問】**迷いながらうぐいすの家に行ったみそさざいは心の中でどんな事を考えていたかな。㊦㊧

- ・寂しそうだな。やまがらさん、ごめんね。
- ・ぼくだけでも行けばよかったのかな。
- ・皆と一緒に来ちゃったけど、どうすればよかったのかな。(略)

**【問い返し】**迷う気持ち、皆は分かる?㊨㊩

- ・分かる。(多数) ・演奏会の練習も大事。
- ・途中で抜ければ、どっちにも行けるよ。
- ・やまがらさんどうしてるかなって心配。
- ・「よし行こう」って思ったと思う。

問い返し以降は、自由な対話である。

2点目の課題として「きれいごと」に終始する傾向である。「きれいごと」も授業としては貴重な意見だが、『なかなか実現することができない人間の弱さ(学習指導要領)』を問い返し、対話したい。 ※以下は続き

**【問い返し】**でもやまがらさんの家は遠いし行かなくても仕方ないのかもしれないね。㊪㊫

- ・仕方ない…。 ・仕方くない!(略)
- ・誕生日は年に1回。 ・今すぐ行くよ!って。

**【発問】**そして、行くことを決めたんだよね。飛んで向かいながら心の中で何て言ってる?㊬㊭

- ・もう寂しくないよ。 ・悲しまないで。
- ・ぼく一人でもいいから行かなくちゃ!
- ・やまがらさん、本当にごめんね。(略)

**【問い返し】**小鳥達は仲良しじゃなくなったかな㊮

- ・それはない! ・どっちも仲良し。

**【問い返し】**でも抜け出しちゃった訳でしょ?㊯

- ・本当のことを話せば分かってくれると思う。

・どっちも大事。 ・次からは皆でやまがらさん家に行ったり、皆で練習したりできる。

【問い返し】そっか。じゃあ、仲良しになるには、どういうことが大切なんだろうね。㊦㊧

・優しさ。 ・思いやり。 ・悲しませない。  
・一人だけにしないこと。 ・どっちも大事にする。 ・相手の気持ちを考えて行動する。

㊦㊧は「弱さ」の立場からの問い返し、㊦は自我関与させる発問、㊧は主人公の行為の背景を考えさせる問い返し、㊦は複数の側面から価値を統一的に創る問い返しである。内容項目を理解させる授業ではなく、考え議論し価値を統一的に捉えさせたい。本時の内容項目「親切、思いやり」で考えれば「困っている人は助ける」と幼い年齢でも言えるが、『「自分が主人公だったら」と投影的に考え(2019 永田)』、『価値がもつ意味の複数性を多面的に考える』『条件や観点の多様性を多角的に考える』必要がある。(2020 高宮)

以上2点から、発問と問い返しを「セット」にすることで、話合いに広がりや深まりが生まれることを実感し、今年度はその点に着目して授業を実践したいと考えた。特に重点を置くことは、①「伝え合い」ではなく「話合い」にすること、②「全体での対話」を授業の根幹に据えることである。

### 3 文献研究から

#### (1) 教師や友達との「対話的な学び」

「対話的な学び」とは、『子供同士の協働、教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める(浅見 2021)』ことである。道徳科での「対話」は「考え、議論する」ことだが「議論」は目的ではなく手段である。内容項目に書かれた文言に縛られ、『価値観の押し付けであり絶対的なものとして指導すべきではない(2020 高宮)』。『道徳的価値観の多様さ(他者理解)、自分に引き付けて考えること(自己理解)、人間としての弱さ・強さ(人間理解)などを引き出す(永田 2017)』ことが授業に求められる。また、『「全体での話合い」を授業

の根幹に据えることでブレずに筋が通り、授業にストーリーが生まれ、学級づくりに直結(2019 加藤)』するのである。

#### (2) 「発問」と「問い返し」について

『「発問で内容項目や教材の内容にググッと迫る直球道徳」で(略)「二球目以降の変化球で LIVE 感を」(2022 中村)』大切に。二球目以降の変化球＝問い返しである。「発問」は『問題発見的・問題解決的・吟味・批判・創造・汎用・自我関与・価値追求(2018 柳沼)』の8視点がある。「問い返し」は『「意見発表会にならないために①別の子に言い換えさせる ②比較検討させる ③即答できない問い返しをする」ことで「自らを問うために考えるポイントを返す」(2019 加藤)』ことが重要である。また『教材に自我関与させた上で(略)連続性を意識し「教材と経験を行き来させる」(2021 森岡)』こと、『話合いで「合意形成させること」「個人思考の差を埋めること(2020 大野)』も効果的である。

## II 研究仮説

教師が「発問」と「問い返し」を工夫した「対話的な学び」のある授業を実践することにより、児童は多面的・多角的に考えを広げ、自分の生き方について考えを深めることができるだろう。

## III 研究計画

### 1 研究内容

#### (1) 発問と問い返しの例と活用

ア 効果的な発問

イ 効果的な問い返し

#### (2) 「全体での対話」における発問と問い返し

ア 対話で児童個々の価値を創る

イ 対話で固定観念を覆し、見方を広げる

ウ 対話で「人間の弱さ」に迫る

エ 対話で深め、「気づき」を創る

#### (3) 「全体での対話」から「自分との対話」へ

ア 対話で、教材と実生活を往還させる

イ 対話で本時の学びを整理する

### 2 研究方法

(1) 研究の対象 令和5年度5年2組27名

(2) 検証のための資料

授業観察（発言・反応）、授業の撮影映像、児童の記述、板書写真、児童の写真等

IV 研究の実際

(1) 発問と問い返しの例と活用

**ア 効果的な発問**

以下、文献や筆者の実践をもとに、効果的な発問を年度毎に更新している一覧である。

普段よく用いる主な <b>発問</b> 例	
導入	○○とは何か。（価値のイメージ） ～についてどう思うか。（現在の思い） ～ことはあるか。（教材文に似た経験）
展開前段	何が問題になっているか。（問題発見） どんな気持ちか。 <b>A</b> （心情・自我関与） どんな思いからか。 <b>B</b> （行為の根拠） 本当ならどうすべきか。（希望的判断） なぜそうしたのか。 <b>C</b> （判断の理由） 自分ならどうするか。（投影・判断） 自分なら何と言うか。 <b>D</b> （投影・自我関与） 主人公の行為をどう思うか。（客観視） 結果、どうなただろう。（因果性） どうしたら納得できるか。（納得解） どちらがよいか。（最善解、比較検討） 自分ならどう感じるか。 <b>E</b> （自我関与） 相手はどう思っただろうか。（可逆性） どんな事を考えているか。 <b>F</b> （多様に） この後どうしただろうか。（未来・創造）
展開後段	皆で言えば、例えば？（実生活へ） 自分も～だったことはあるか。（共感） ～できなかったことはあるか。（共感） どう思ったか。（ある場面の心情から） 大切なことは何か。 <b>G</b> （学びの整理）
終末	～とは何か。 <b>H</b> （再度問い、変容をみる） 今思うことは何か。 <b>I</b> （本時の振り返り） 学んだことは何か。（自分・友達から） 今までは（過去）・今日は（本時）・これからは（未来）…書き出し例3点提示

発問は、導入1つ・前段2つ・後段1つ・終末1つ程度としている。前段・後段を1つ

の大きな問いで貫く時もある。事前に用意するが、児童の思考に沿って問うため、問い方や言い回しはワークシートに載せず、その場の判断で決定する。「どんな気持ち？」と問えば「嬉しい、悲しい、清々しい」など心情を表す言葉で返ってくるが、「なぜ」と問えば背景や心情を考察し「～だから」と理由付けて返ってくる。想定通りいかないのが「全体での対話」であり、その場で生まれる問いで繋いでいくことで話合いは広がり、深まる。

**イ 効果的な問い返し**

『向かう方向を（教師が）見据えながら、自分達の方で行き着くために、考えるべきポイントを問うて返す（2019 加藤）』必要がある。以下は普段よく用いる問い返しの例である。

※①～③は前述 I, 3 (2) (2019 加藤) の分類。

普段よく用いる主な <b>問い返し</b> の例	
①	今の意見はどういうことか。 <b>J</b> （具体化） 他に見方はあるか。（視点を広げる） ～の気持ち、分かる？ <b>K</b> （多角的に） 同じような経験はあるか。 <b>L</b> （自我関与） 仕方ないのでは…。 <b>M</b> （弱さに迫る） ～どうすればよいのか。（行動・判断）
②	もし～できなかつたら。（逆の仮定） どちらが大切か。（対立的価値の葛藤） この2つは同じか、違うか。 <b>N</b> （比較） 大切なことは何か。 <b>O</b> （学びの整理） ～するといいんだね？（限定） 違い（共通点）は何か。 <b>P</b> （比較・焦点化） 今後 どう生かせるか。（汎用性） この○○は○○か。（板書の活用） ここは（それは）なぜか。 <b>Q</b> （内容・文脈）
③	本当にそれでいいのか。（吟味・批判） 本当に～だろうか。 <b>R</b> （価値・本音に迫る） ～できているか。（理想と経験の矛盾） なぜ大切なのか。（価値への気づき） 自分達はどうか。 <b>S</b> （実生活へ広げる） 相手が誰でもできるか。 <b>T</b> （普遍的に）

児童と共に授業を創る LIVE 感を大切にするため、用意した問い返しの半分以上は使わ

ず、その場で児童の発言に合わせて考え、問い返していく。問い返しは授業の方向性を大きく左右する。あえて分からないふりをして沈黙を創る演技も、児童の次の呟きを創る「返し」の一つだ。やっと言葉になるほどの児童の小さな呟きも拾いたい。

以下④～⑩は、上記一覧から活用した。

## (2) 「全体での対話」における発問と問い返し

毎回の授業で「ペアでの対話」（固定ペア・自由ペア）は数回取り入れる。消極的な児童も含めた全員の対話の機会を確保し、自他の意見を比較させるためである。しかし、授業の根幹は「全体での対話」（I, 3 (1)）であるとともに、最もコーディネートが難しく、最大の課題である。そのため(2)以降は「全体での対話」のみに着目して述べることにする。

### ア 対話で児童個々の価値を創る

「遠足の子ども達」（善悪の判断、自律、自由と責任）（資料1①）

### 【発問②】ルールを守る小学生を見て、「私」が爽やかな気持ちに変わったのはなぜか。◎

- ・静かだったことで気持ちが楽になったから。
- ・思っていた小学生ではなかったから。
- ・静かで「休める」と思えたから。
- ・きまりを守る姿を見て爽やかになったから。
- ・自分も落ち着くことができたから。（略）
- ・ルールを守った小学生もいると知って、決めつけている自分に気付けたから。

### 【問い返し】なぜ、行動できたの？ ◎

- ・ルールを話合ったから。 ・ルールを守ったから。
- ・自分で考えて自由に行動したから。（略）

### 【問い返し】大きく2つ、何が挙がった？

- ・ルールを守ること。 ・自分で考えて、自由にしていること。（略）

### 【問い返し】その2つは同じ？違う？ ⑨

- ・全然違う！（多数） ・全く逆。 ・違うかな。
- ・自由と…きまりは…。 ・違くもないか。
- ・いや、全く違う訳ではないんじゃない？
- ・何をしてもいいって訳ではないよ。（略）

### 【問い返し】ルールと自由は、同じもの？⑩

- ・50、50 じゃない？ ・99.9%違う。
- ・反対に感じる…。 ・けれど全く違う訳ではない。
- ・どっちも「自分で考える」ってことなんだよ。
- ・んー…どっちも「自由」に考えるんだよ。
- ・どっちにしても自分で一度考えること。（略）

### 【問い返し】ちょっと待って？最初に「自由って何」って聞いたら「好きなように」「決まり・縛りが無い」「好き勝手」「思い通り」って挙がってたよ。じゃあ「自由」はどっち？⑨

（※板書の「ルール」「考えて行動」を指す）

- ・自由はルールにも入る。 ・入る！（多数）
- ・いや、ちがう。入らないでしょ？
- ・でも…待ってよ。 ・ルールに入る訳ではないけど、ルールは「しましょう」なんだよ。
- ・自分で考えるかが大事でしょう？ （略）
- ・どっちにも入らないかなあ…。 （児童N）

### 【問い返し】Nさん、今なぜそう思った？◎

- ・ルールを守れば自由にしてもいいけど「自由だ」って言うと、何も考えてないみたい…
- ・自由とは言っても、何をすべきか自分で考えなければならないと思う。
- ・「自分の考え」があるか無いかが大重要。（略）
- ・「自由」でも、何が大事かを考えるんだよ。（略 ※休み時間の「自由」が話題に）
- ・自由の範囲を自分で決めることが大切。
- ・ルールの範囲の中で自由にすること！
- ・それだと、ルールあつてのことじゃん？
- ・何をしてもいいの。でも、考えるの！（略）
- ・自由の中にも思いやりが大事なんだよ。 ※ア

### 【問い返し】思いやりかあ。なるほどね。

- ・思いやりがルール。 ・さっきYさんが「廊下は走らない」って言ったけど、怪我をする人が出るから他の人を思いやって、自分なりの範囲を決めて生活することが大事。
- ・自由の中にもルールがあつて、ルールの中にも自由がある。
- ・えー、だけど…それじゃ自由じゃないんだよな。「自由」なのにさ。ルールってなると絶対に守らなきゃならないじゃん。（略）
- ・周りの人、相手が嫌な思いをしないか…そ

ういうことを考えながら行動するのが自由。

**【発問③】 (略) 今日の課題だった「自由とは～」改めて考えて、書いてみましょう。㊦**

- ・ 限度を超えずに楽しく過ごすこと。
- ・ 嫌な思いをさせず、ルールもある中で楽しく好きなようにすること。
- ・ 自分も他人も嫌な気持ちにならないように、自分で範囲を決めて自由にする事。
- ・ 自由とは、やっていいことと悪いことを考えて、人を思いやること。 (略)

**【児童の記述】**

- 何をしてもいい。でも自由の中には範囲がある。嫌な気持ちになる人がいたらそれは自由の範囲を越えている。
- 相手も自分も嫌な気持ちにならないこと。範囲を越えずにやりたい事をやること。

(写真①)



**【結果・考察】**

内容項目「自由～(略)」の授業をする際、相反する内容項目はおよそ「規則の尊重」だろう。2つの『価値・反価値の「価値葛藤の場」(2018 荒木)』がモラルジレンマである。当然、自由も規則も大切であり、どちらかに偏ると社会の秩序は壊れる。バランスが大切だからこそ「何が大切か」と問う価値がある。どちらが大切かを結論付けるのではない。ジレンマを自分事として捉え、道徳的な判断力を高めていくのだ。前述※アは内容項目で言えば「親切、思いやり」であり、【発問③】にかけて①自由、②規則、③思いやりに派生している。これは「ブレた」のだろうか。『一つの事象は複数の価値が関連し合っていて(略)得たことを統合的に考えたり、新たな考え方を発展的に生み出したり(2021 赤堀)』とあるように、「自由の中に規則も思いやりもあって…」と児童が統合的に理解することが価値理解なのだ。道徳科での「まとめ」は、

終末での児童一人一人の発言や記述である。

**イ 対話で固定観念を覆し、見方を広げる**

「お父さんは救急救命士」(勤労、公共の精神)

(資料1②)

**【発問①】お父さんは人工呼吸をしている時、どんなことを考えていただろう。㊦**

- ・ 呼吸が戻ってくれ。 ・ 死なないで…。
- ・ 救急車はまだか。 ・ この子を助けなきゃ。
- ・ この子の命は絶対に助けるんだ！
- ・ ここでやめてしまったら負けだ。 ※イ(略)

**【問い返し】負けってどういう事だろう。㊦**

- ・ 救急救命士としての負け。 ・ プライド？
- ・ 覚悟。 ・ 人を助ける為に働いてるから。(略)

**【問い返し】…でも最初の皆の意見、働くのは「お金・生活・家族のため」って… ※ウ**

- ・ ああ、そっか。 ・ 人を助けるために救急救命士がいる…。 ・ お金だけじゃなくて…。
- ・ 自分は救急救命士だから、休みの日だけど、仕事の役割を果たしたいから？
- ・ 仕事を全うする。 ・ プライドがあるから。
- ・ 人のために。 ・ 皆のために働く。

**【発問②】人のためと思って人工呼吸をするお父さんを見て主人公はどう思ったかな。㊦**

- ・ お父さんのように人を助けたい。 (略)
- ・ お父さんはどんな時も人のために頑張ってるから、私も人の役に立ちたい。
- ・ 私も救助を手伝いたいけど今はできない。
- ・ これが「助ける」ということか。
- ・ 覚悟をもって仕事をしている。 ※エ

**【問い返し】「覚悟」なるほどね。今日の課題をもう一度。人は何の為に働くのか。㊦**

- ・ 人のため。 ・ 皆のため。 ・ 世の中のため。
- ・ 人の役に立つため。 ・ 他の誰かを支えるため。 ・ 自分のため。 ・ 嬉しさがあるから。

**【問い返し】皆はどんな時に嬉しく感じる？㊦**

- ・ 誰かの役に立った時。 ・ 何かを達成した時。
- ・ 喜んでもらった時。 ・ やりがいを感じた時。

**【児童の記述】**

- 皆のため誰かのために働くことは自分のためになるのかもしれない。

○「なぜ当番の仕事を続けるの？」と聞かれた時「楽しいから」と言える人になりたい。

【結果・考察】

「～すべきだ」という価値観は、小学校2・3年生くらいで大体言葉として言えるものだろう。しかし「人のために働くべきだ」と分かっている、委員会や当番、行事の運営など役割が増えてくる高学年になるにつれて、仕事を「面倒だ」と言う児童が増える傾向がある。高学年での「勤労、公共の精神」は「報酬や見返りを求めない働き対価＝やりがい、喜び」を実感できるかが重要である。やりがいや喜びの無い勤労は「大変、辛い、面倒」という苦役になる。本時は小学生と社会人の勤労が大きく異なる点「報酬」に焦点を当てるため、利益や報酬と無関係な「負け」※イという発言を拾い、問い返した。この教材は、休日の救急救命士の救助だ。『予定調和をひっくり返す(2019 加藤)』ことで、働くことへの固定観念を覆したいと考えた。導入の意見※ウは予想していた反応であり、導入との矛盾点を問い返し、人の為に働く喜びや嬉しさ、覚悟※エに感覚を広げたい思いがあった。

(写真②)



ウ 対話で「人間の弱さ」に迫る

「駅前広場は誰の物」(規則の尊重)(資料1③)

【発問①】放置自転車やゴミを見て、自分ならどう思いますか。 ㊤

- ・汚い街だと思われるし、迷惑をかけてモヤモヤしてしまう。・自分で拾ってほしい。
- ・自然を大切にできてない。・なぜここに放置？
- ・拾う人がどんな思いをしているのか。(略)
- ・なぜ捨てるのか。面倒くさいと思うのか。
- ・1人ルールを破ると皆「いいや」って思う。

【問い返し】「拾う人の思い」っていう意見も挙がったけど、どんな思いで拾うんだろう。

さっき、クリーン活動でゴミ拾いましたね。 ㊤

- ・なんでこんな所にゴミ？ ・汚かった…
- ・いっぱいありすぎ。・本当にやめてほしい。
- ・なんで？ どういう気持ちで？ っ。 (略)

【問い返し】なぜポイ捨てるんだろう。 ㊤

- ・癖がついちゃってる。捨てる癖。
- ・捨てる時、拾う側は気持ちよくないはずだし、捨てる側も気持ちよくはないのに。
- ・捨てるほうも？ ・皆気持ちよくはない。
- ・自分も、気持ちよくないでしょ。
- ・でも「別にいいだろ」って思うんじゃない？

【問い返し】「ポイ捨てるはダメ」なんて小さい子でも分かるって最初に皆言ったね？でもなぜポイ捨てるは無くなるのか。 ※オ㊤

- ・気持ちに、悪い癖がついちゃってる。(略)
- ・そうやって昔から捨ててたのかもしれない。
- ・バレなきゃいい、見えない所ならいいって。
- ・奥の方なら、誰も見てないなら…って。
- ・「いいや」っていう気持ちがあるんだよ。
- ・心の隅っこに「別にいいや」がある。 ※カ

【児童の記述】

- 皆が生活しやすいようにきまりを作り、それを守り、皆が気持ちよく過ごすため。
- きまりを破ってまでやったことは、結局自分のためにならないと思う。

【結果・考察】

学習指導要領「規則の尊重」では、5・6学年は『きまりの意義を理解し(略)自他の権利を大切に』とされている。「ポイ捨てる・違法駐輪はよくない」程度で留まれば、1・2年『きまりを守り(略)物を大切に』の段階である。目標の解説には『道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さを理解する』と書かれている。つまり「人間理解」は『教材の中の悪人探しではなく、自分にもある弱さを自覚すること(略)自我関与によって価値の自覚を促すこと(2020 高宮)』が重要なのだ。それを踏まえ※オの問い返しを入れた所、※カのような意見が出た。この後「きまり」についての考え



を記述させたが、人間の弱さを知った上で、さらに自分を見つめさせる時間を多く確保できなかったことが反省点である。



(写真③)

**エ 対話で深め、「気づき」を創る**

「同じ空の下で」(国際理解、国際親善)

(資料1④、資料3)

**【発問②】あなたと世界中の(写真の)子ども達「同じ」「似ている」ことはどんな事?⑥**

- ・家族がいること。 ・感情の表し方。(略)
- ・嬉しい、楽しい、悲しい、感情があること。
- ・仲間と一緒に遊んだり笑ったりすること。
- ・一人の人間であること。 ・誰かを慰めること。
- ・自分の目標に向かって努力していること。
- ・同じ地球に住んでいる。同じ気持ちになる。

**【問い返し】国は違うんだよね。でも今挙げた意見から…どういことが言える? ①**

- ・全てが違う訳ではない。(同様多数、略)

**【問い返し】この(写真)海外の子ども達と皆は「友達」ですか? ※ケ**

- ・んー、友達… ・友達ではないけど…(略)

**【問い返し】「関係がある人」ですか? ※ケ**

- ・関係…。 ・関係が無いとは…言えない。
- ・少し、関係している。 ・同じ、「人」。
- ・同じ地球に住んでるから…。
- ・関係が無いとは言い切れない。(略)

**【問い返し】なぜ、そう思う? ※キ②**

- ・同じ地球に住む、同じ人間だから。
- ・「人」だということは、繋がってる。
- ・繋がろうとすれば、繋がるかもしれない。
- ・寄付とか、リモートとか? ・んー…。

**【問い返し】繋がることは難しいのかなあ。今日の課題「遠い国」なんだろうね…? ※ク**

- ・遠いけど、近い。 ・遠いようで近い。
- ・人として考えれば近いんじゃない?
- ・国と国は遠いけれど、人と人は近い。(児童H)

**【問い返し】Hさんが言ってることって、どういうことだと思う? 皆は。 ※キ①**

- ・場所は離れてる。でも一人一人の存在価値は同じだし、「人」は近いと思う。(皆頷く)

**【発問③】(略)5秒に1人亡くなっているという話は衝撃だったね。(日本の医療現場・食料廃棄の写真提示)今、何を思いますか。①**

- ・その人達の為にどうしたらいいんだろう…。
- ・その人達の分まで生きる、とか…?
- ・私達が勉強したり遊んだりしてる5秒に1人が亡くなっていることが本当に可哀想。
- ・今自分は子どもだから、できることは少ないけど、できることは何だろうって思った。

**【問い返し】今の自分。何ができるだろう。**

- ・募金。 ・寄付。 ・食べ物を残さない。(略)
- ・フードロスってよく聞く。 ・結構残してる。
- ・人生の1秒1秒を大切に生きることが大事。
- ・そういう事実を、まず知ったり思ったりすることが大事なんだと思う。(略)

**【問い返し】授業の最初、皆「遠い国」って言ってたけど…どう? ※ク④**

- ・物理的に遠いだけかも。 ・人としては近い。
- ・距離も、近いのかもしれない。



(写真④)

**【児童の記述】**

- 声は届かなくても、知って思ったり応援したりすることが大切。場所は遠いけど、近い存在であることが分かった。
- 遠い国だとしか考えてなかったけど、自分と近い所もあるから関係していて、人として近いんだなと思った。

**【結果・考察】**

「遠い」と「近い」という簡単で真逆のワードで揺さぶりながら45分間を貫き、物理的な距離と心理的な距離に気付かせたいと考えた。令和5年度の本校は校内研修で外国語教育を研究してきたことも踏まえ、単なる「第二言語習得」に捉われず、他国を「近い」と

感じさせ、他者理解・国際理解の感覚を広げさせることが、次へのステップだと感じていた。教師の思いが強いほど問い返しが多くなることは反省点だが、問い返しは「拾う・広げる・覆す・揺さぶる・迫る」だけでなく、時には「気付かせる」効果もあり、『吟味を促す(2018 柳沼)』視点も大切だ。

また、前述 I, 3 (2) 『①一人の発言を別の子に言い換えさせる※キ、②比較検討させる※ク、③子どもの発言を受けて、即答できない返しをする※ケ』も効果がある。(2019 加藤)

(3) 「全体での対話」から「自分との対話」へ  
**ア 対話で、教材と実生活を往還させる**

「心のレシーブ」(友情、信頼)(資料1⑤)

**【問い返し】「いつも一緒」じゃない人は仲間ではないんだね? …ん? じゃあ、何?**

- ・友達と仲間は少し違う気もするんだけど…。
- ・違うの? ・え、何だろ。(略)

**【問い返し】皆は仲間を理解できている? ※コ①**

- ・はい(1/3) ・いいえ(1/3) ・微妙(1/3)

**【問い返し】できてない人はなぜそう思う? ②**

- ・まだまだ知らない部分がある…。(多数、略)

**【発問③】心が一つになったのはなぜだろう。③**

- ・(多数、略) ・お互いの頑張りを理解したい。
- ・言葉を掛け合うことが大事。 ・相手のことを分かったから。 ・仲間の頑張りが分かった。
- ・一人が頑張ると周りも前向きになる。(略)
- ・仲間の努力を認めて、受け入れたから。
- ・チームの中で気持ちが重なったから。

**【問い返し】重なった事、ある? ※コ④**

- ・あります(多数) ・運動会とか ・激励会
- ・「勝ちたい」「頑張りたい」が重なる。
- ・気持ちが一つにまとまるっていうか…。

**【問い返し】皆もそういう時ある? ※コ⑤**

**【発問④】この話のように友達のよい所や頑張りを見つけて受け入れた時、ある? ※コ⑥**

- ・一輪車が初めは苦手だったけれど、一緒に遊んだり教えてくれたりして上達できた。
- ・怪我した時に、心配して励ましてくれた。

・私が算数が苦手なことを、分かってくれて授業が終わっても教えてくれた。

・男子女子って区別しないで「頑張ろう」って友達が言っていたのがすごいなと思った。

(写真⑤)



**【結果・考察】**

「皆は～経験ある? 皆はどう? ※コ」のように、教材の内容を実生活と往還させて考えさせる。教科書の教材を見ると、「自分事」に置き換える初期段階の低学年の登場人物は動物が多い。中学年は同世代の小学生が多く、高学年は小学生に加えて偉人や著名人が増える。発達段階に合わせて「置き換える」対象が広がっていく中で大切にしたいことは、展開後段や終末で突然「皆は? 自分は?」と問うのではなく、導入・展開・終末で、何度も教材と実生活と往還させることである。特に導入で実生活の話題で対話したり、事前アンケートを生かして1～2分の短時間で幅広く生活経験を拾ったりすることは、その後の思考の幅を広げることにも繋がる。(資料8)

**イ 対話で本時の学びを整理する**

「どんな感じかなあ」(公正、公平、社会正義) ※絵本「どんな感じかなあ」自由国民社

**【発問②】ひろくんは(登場人物の)3人に会ってどんなことを考えただろう。 ②**

- (略) ・その人の気持ちになると発見がある。
- ・普通って何だろ。 ・普通って難しい。 ※サ

**【問い返し】「普通」って何なんだろうね。 ①**

- ・皆が勝手に決めつけていること。
- ・車椅子の人なら、それはその人の普通。
- ・人によって「普通」は違うんだよ。(略)
- ・不自由っていうより「苦手」というか。
- ・嫌なことばかりじゃないからさ。(略)
- ・その人の立場で考えなきゃ分からない。
- ・人それぞれ得意、不得意はある。(略)



**【問い返し】初めの写真（白杖を持つ人、義足のアスリート、車椅子の人）皆は「可哀想」だと言ってたね。本当に「可哀想」かな。㊸**

- ・可哀想と言えば可哀想かもしれないけど…。
- ・その人自身がどう考えるかが大事なんだよ。
- ・確かに。全てその人しか持っていない物。
- ・目が不自由だと、他の人より聴く力が凄い。
- ・足、耳、目が不自由でも人と関わるだけでそれはもう可哀想ではなくて幸せ。（略）

**【問い返し】ここまでを踏まえて、もう一度聞きます。「普通」とは、何だろう。㊹**

- ・そもそも「普通」なんて無いんだと思う。
- ・無い訳でもない。人それぞれだよ。㊺
- ・一人一人の「普通」がある。・皆違う。
- ・自分の「普通」は人の「普通」ではない。
- ・「普通は…」っていう言葉が差別を生む。
- ・「普通はこうだろ」って言っちゃいけない。
- ・マイナスな事ばかりじゃないし、その分、得意な能力が高まる。自分がどう思うか。

**【発問③】この授業で、どんな事が大切だと考えた？（※終末の書く活動、発表）㊻**

- ・可哀想だとか考えるよりも、人それぞれ「普通」は違うんだと分かってるほうが大切。
- ・人の数だけ、たくさんの「普通」がある。
- ・その人になって考えると色々な発見がある。
- ・その人にしかない、いいものがある。
- ・個人差は必ずあって、それが良さ。
- ・できて当たり前みたいなことが「普通」とされがちだけど、得意なことも不得意なことも「個性」と考えた方がいい。（略）
- ・不得意な分だけ、得意な事の力が高いだろうし、相手のそれを見つけてあげること。

**【結果・考察】**

「転校生がやってきた」（公正、公平、社会正義）を実施した上で、同じ内容項目で、翌週は余剰時数で絵本（写真⑥）を用いた。翌々週には「心のレシーブ」（友情、信頼）を実施し、『複数の授業で多様な面から考えさせるパッケージ型ユニット』（2017 諸富）を意識し

て他者理解を目指した。対話の中で「普通」**※サ**という言葉が挙がり、主題「差別、偏見の無い～（略）」と大きく関係することから、事前の予定を変更し「普通とは何か」を問い返すことにした。「人それぞれの普通がある」**※シ**というような発言が複数挙がった上で、終末は「どんなことが大切だと考えたか」と発問して整理したことで、児童一人一人の本時のまとめにつながっていく。発問③以降をみると「公正、公平、社会正義」「個性の伸長」「相互理解、寛容」「友情、信頼」に関する意見が挙がり、複数の内容項目の視点から、主題「差別、偏見の無い～（略）」を統合的に捉えることができたと考えられる。

「ひろくん、かんがえすぎー」

あ、ぼくはしゅわができない。

だから、さのくんは、ほとんど ぼくのくちをみていて、  
いうことがわかるんだ。

それも すごいでしょ。

（写真⑥）

**V 成果と課題**

**1 成果**

- (1) 昨年度まで効果を感じていた様々な指導法を継続しつつ、今年度は特に「発問と問い返し」に主軸を置いて取り組んだことで、児童の学びの広がりや深まりを感じる「対話的な学び」の場面を多くすることができた。
- (2) 発問を考える上で大切な視点は、①教材文のどこに注目して発問するか、②問い方や言い回しをどう工夫するか、③どんな終末に向かいたいのかを考えることだと感じた。

問い返しの目的は児童の考えを広げ深めることであり、対話の中で「用意した問い返し」を生かし、「その場での問い返し」を瞬時に考えながら対話を創る必要性を感じた。

- (3) 考えや記述を発表させるだけであれば容易だが「全体での対話」で深めることは難しい。発問と問い返しをセットで組み合わせることで、児童の発言を拾えるようになり、発言・発表がつながっていき「対話」となる。

「課題・教材との対話」から始まり、教師・全体との対話、児童同士の対話を合わせたものが「全体での対話」となり、さらには「自分との対話」につながっていく。

## 2 課題

(1) 「対話的な学び」の最大の難点は、止めることのできない時間の流れを、授業者の瞬間的な判断の連続で創っていくことである。事前準備をした通りにはいくはずが無い反面、授業者である担任が事前準備の段階でどこまでイメージができていたかが重要だ。担任にしか見えない日々の時間的な連続の見取りを、授業と関連付けていくことが大切だと感じた。

(2) 発言の拾い方、教師の「耳」である。「全体での対話」は発表ではないため、誰の発言や呟きをどのタイミングで拾うかが授業を左右する。内容項目の文言に囚われると、教師が目指す方向性に一致した言葉だけを拾ってしまう。児童の声を広く拾い、広く受けとめる「耳」が求められる。また、「全体での対話」を児童に預ける・任せる感覚や、時には沈黙の間を我慢して待つ覚悟も必要になる。

(3) 「全体での対話」を授業の根幹に据える効果は大きいですが、高学年になるにつれて発言する自信の差は広がり、発言できる児童に限られた対話になりがちである。その対策として、①記述を拾って称賛し、自信をもたせること、②ペアやグループなど少人数でのアウトプットの機会を生かすこと、③対話の流れの中でも、小さな声も拾うこと、④個々の思考する速度を考慮し、個で考えさせる時間を確保すること等が必要不可欠だと感じた。

## 3 おわりに

当番活動等にあまり意欲的ではない児童M。「勤労、公共の精神」の授業前半で「働くのは面倒だし、何か見返りが欲しくなる。」と発言したが、終末には「人のためになる事をしたら、自分も嬉しいかもしれない。」と呟いた。Mは絵画や工作が得意である。6年生を送る会に向けた体育館の飾り付け担当に立

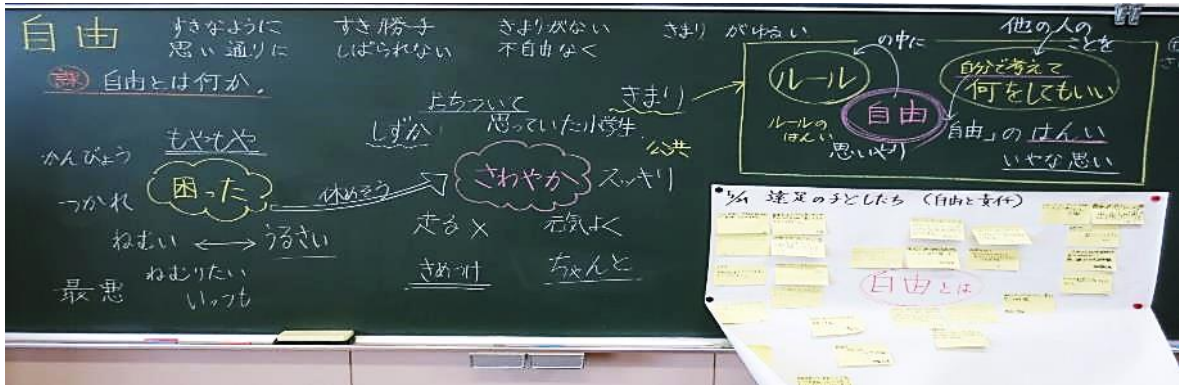
候補し、意欲的に取り組んだり、「イラスト、私がやってもいいですか？」と次年度の新生歓迎掲示を自ら休み時間に作ったりする姿が見られた。「ありがとうね、素敵な飾り。きっと喜んでもらえるよ。」と声を掛けると、「私、やりたくてやってるんです。すごく楽しいし。」と話していた。道徳性の発達を評価するということは、変容を見取ることだと実感すると共に、その変容を認め励ましていける教師で在りたいと感じた瞬間だった。

### 【主な参考文献・引用文献】

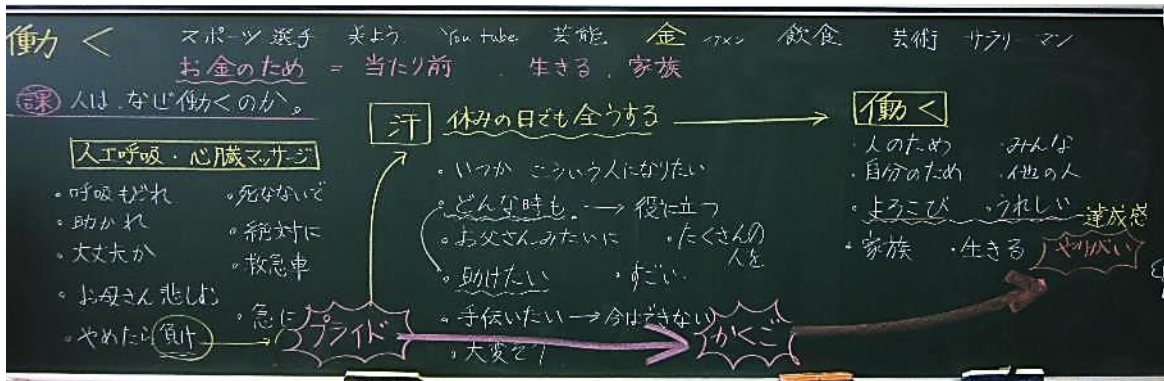
- ・文部科学省(2018)「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 編」
- ・中央教育審議会(2016)「考える道徳への転換に向けたWG」
- ・赤堀博行(2021)「道徳教育キーワード辞典」東洋館出版社
- ・永田繁雄(2017)「学習指導要領改訂のポイント小学校・中学校特別の教科道徳」明治図書
- ・永田繁雄(2019)「小学校道徳指導スキル大全」明治図書
- ・浅見哲也(2021)「道徳科授業構想グランドデザイン」明治図書
- ・高宮正貴(2020)「価値観を広げる道徳授業づくり」北大路書房
- ・加藤宣行(2019)「話し合い&道徳ノートの鉄則45」明治図書
- ・柳沼良太(2018)「小学校道徳科『問題解決的な学習』をつくるキー発問50」明治図書
- ・中村優輝(2022)「直球で問いかける小学校道徳科授業づくり」東洋館出版社
- ・森岡健太(2021)「おもしろすぎて授業したくなる道徳図解」明治図書
- ・大野睦仁(2020)「6ステップでつくる！本気で考える道徳授業」明治図書
- ・荒木紀幸(2018)「小学校新モラルジレンマ教材と授業展開」明治図書
- ・諸富祥彦(2017)「考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ10」明治図書

【資料1】板書の実例

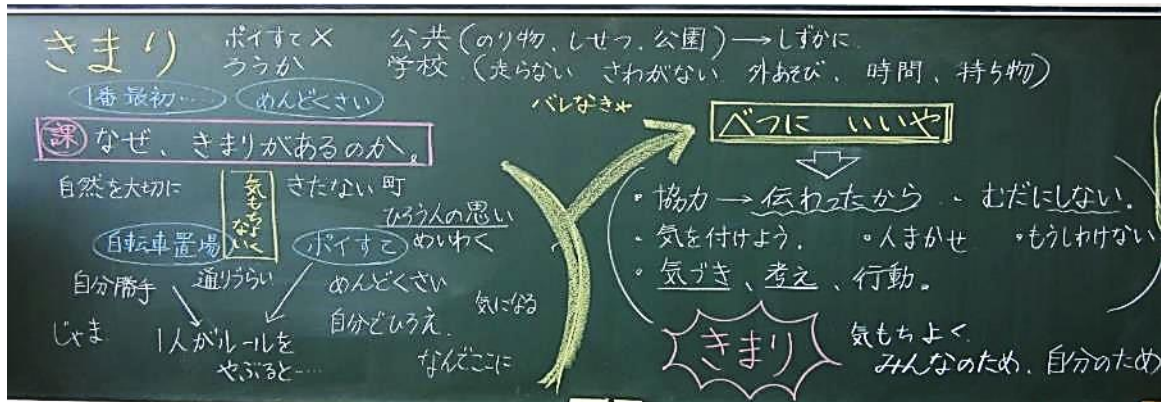
①「遠足の子供たち」(善悪の判断、自律、自由と責任)



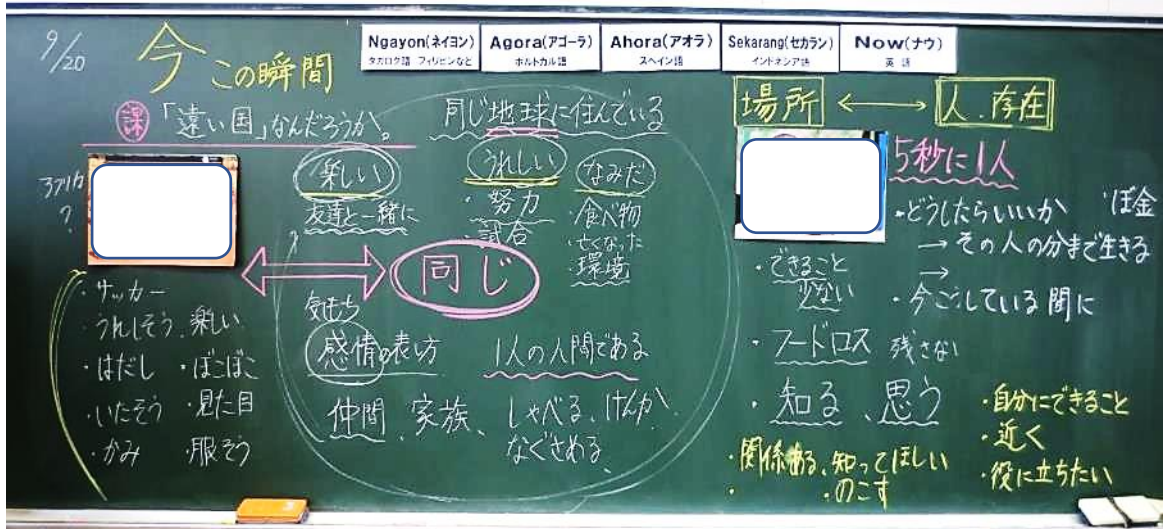
②「お父さんは救急救命士」(勤労、公共の精神)



③「駅前広場は誰のもの」(規則の尊重)



④「同じ空の下で」(国際理解、国際親善)

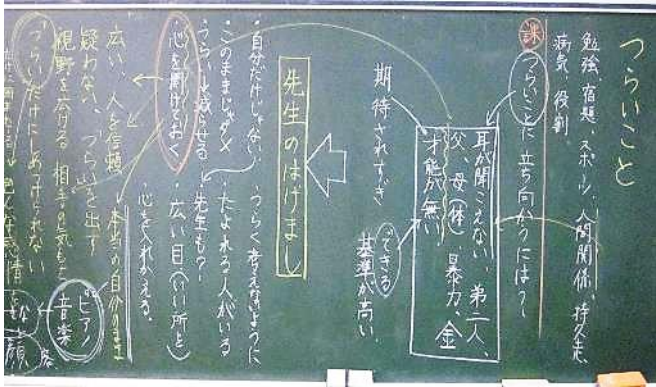




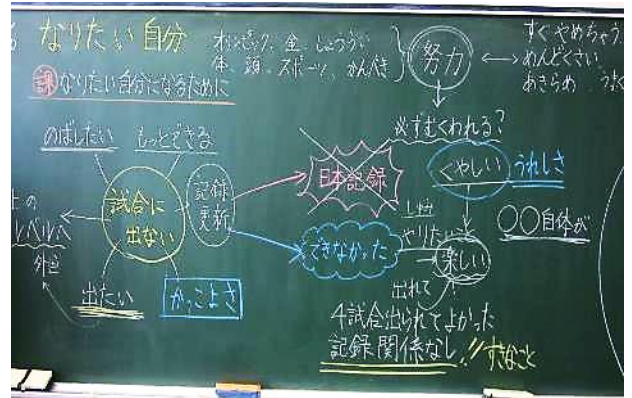




⑪ 「ベートーベン」 (希望と勇気、努力と強い意志)



⑫ 「いつも全力で」 (希望と勇気、努力と強い意志)



【資料2】 授業準備メモの例

「心のレシーブ」 (友情、信頼)

発問 (黒字)

◎中心発問、○基本発問・補助発問。  
言い回しは、話し合いに応じて変える。  
発問ごとに変更することもある。

問い返し (青字)

用意した問い返しの全ては使わない。  
この他、児童の発言に応じて「その場の問い返し」を入れていく。

確認事項 (緑字) や  
準備物 (緑字)

活動 (赤字)  
書く、ペア、全体など

(事前) タブレット、アンケート...

23 心のレシーブ (友情、信頼)  
(導入) ① 「仲間」ってどんな人? 「友達」とはちがうの? 一緒に遊ぼうか?  
② 仲間のことを理解できているか  
なぜだろう? どうすれば理解できるのか、いい所?

結果 仲間をもっと理解するためには  
(オーガナイザー) [得意]はうみさちよ [苦手]はおさ、おしお

◎ ① 「よしおさんだてがんばっている」 引っかけた  
どんなことを考えていたのだろう。 書く → 全体

◎ ② 「よし、次は勝つぞ」 ~ うなずいた  
チームが 1つになれたのはなぜだろう。 書く → ペア → 全体  
陽子は何を反省しているか。 認める 発表 勝手にい

共通 (放課後練習の2人の思いは?) そのことを知っていたら  
得意な女子2人の "  
仲間をもっと理解するためには 大切なことは何か  
認める、励ます、いい所を見つけ、  
受け入れる、勝つための... 書く

◎ ③ 皆も そういう経験ある?  
(いい所を見つけた、がんばった所、すてきな所) (理解し合えた)  
タブレット オクリンク? 模造紙 付箋か

④ ふりかえり 書く → 発表

仲間 → 整理  
仲間を... 模造紙

板書 (下部) 構造のみ考える。挙がってほしい言葉を書いてしまうと、そこに話し合いを「引っ張って」しまう。板書は児童の言葉で創っていく。

1冊のノートに、毎回同じように15分程度でメモを作る。年間35回の道徳科の授業を、いつも同じ準備量で進めていく上で「できるだけ短時間で効率よく」という意識で教材研究を行う。

毎回の質にこだわりたいと思うと、大切になってくることは「発問と問い返し」である。「発問と問い返し」を考えることは、道徳科に限らず他教科にも汎用性があり大切だと改めて感じる。



## 第5学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和5年 9月 20日（水）3校時

場所：5年2組教室 授業者：久保木壮平

【研究テーマ】 伝え合い・聴き合い・深め合う子どもを育む 対話的な学び  
【ブロックテーマ】 対話的な学びを目指して、多様な思いや考えを関連付けて話し合い、自分の学びを深めることのできる子どもの育成

### 1 主題名 「同じ空の下で」（東京書籍） 【C 国際理解、国際親善】

#### 2 主題設定の理由

##### (1) 内容項目について

地球には200以上の国と地域があり、当然、言葉や文化、考え方は様々である。しかし、平和を願う気持ち、命や人を大切に思う気持ち、自国の伝統や文化を愛する気持ちなど、共通する「思い」があることも確かである。グローバル化・情報化社会の進展や、争いが絶えない世界情勢において、国際理解や国際親善は重要な課題である。

5・6学年での内容項目「国際理解、国際親善」は「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること」とされている。遠く離れた国で生活する人々や海外で活躍する人のことを扱う教材が多く、児童が「自分事」に置き換えて捉えることが難しいと考えられるため、教材に自我関与させるための工夫が必要である。

本時の学習を通して、どの国でも独自の伝統と文化があることや共通する願い・思いがあること、国の域を越えて解決すべき課題があること等への理解を深め、自他を尊重する態度を養い、進んで他国とつながろうとする意欲を高めていきたい。

##### (2) 教材について

本教材は主人公が登場するような読み物教材ではないため、心情の変化や行動に着目させるような指導は行わない。他の教材文より、わずかだが比較的量が少ない内容である。

他国に住む子どもと、日本に住む自分達には「違うこと」と「同じこと」がある。教材の前半では、挨拶の仕方や言葉が大きく違うことが挙げられている。それに対して、宝物を持っていたり、涙を流したり、友達と肩を組んで笑ったりしている他国の子どもの写真が挙げられ、「大きな違いはありましたか」と問いかけている。「違うこと」と「同じこと」の比較を通して、価値理解を深めることのできる教材である。

教材の後半では、食糧不足や健康上の問題から、5歳以下の子が5秒に1人の割合で死亡している現状について書かれている。遠く離れた「違う」国でのことではなく、「同じ」空の下で生きる子どものことであることを理解し、地球に住む1人としての自覚をもてるよう工夫したい。

##### (3) 児童の実態について

道徳科の授業で見た場合、教材の登場人物の心情を考えて、記述したり発言したりできる児童はあまり多くない。記述したことをペアで伝え合う場面や発表する場面では積極的な姿が見られるが、教師の問いかけに対して、学級全体で話し合う場面での積極性には個人差があり、考えをもてない

児童や、考えをもっているが発言できない児童が多い。また、教材と実生活を関連付け、自分事に置き換えて考えることに難しさを感じている児童が数名おり、個別に支援している。

他教科や特別活動における「他者理解」という点で見ると、クラス替え直後の4月に比べ、少しずつだが交流が広がっている。その反面、自由な時間や自由に交流をする学習では、以前から仲の良い友達や同性のみと関わる傾向が強い。まだまだ、広い交流だとは言えない。

本校は外国語教育の研究の指定を受けており、外国語専科による授業も充実し、英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が多い。休み時間、ALTに自分から声をかけて会話をする姿も見られる。外国語科の学習を深めていく過程において、英語という言語の習得だけでなく、この機会に、他国に視野を広げて国際親善に努めようとする心情を育てたい、そのきっかけを創りたいと考え、本主題を設定した。

#### (4) 指導について

本時の学習過程は、他国の人々が我が国と同じように、国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることを前提として考えていく。国を越えた関わりについて考えること（道徳的判断力）、他国の人々と互いの違いに捉われることなく、認め合い、気持ちを理解し合うこと（道徳的心情）、進んで他国のことを理解し、交流を広げようとする国際親善の態度を養うこと（道徳的実践意欲と態度）の3点を大切にしたい。

以上を踏まえ、本時の導入では、同じ意味の5か国語を提示したり、日本の子どもが遊ぶ様子との違いを考えさせたりすることを通して、「異文化」のイメージをもたせる。その上で、「『遠い国』なんだろうか」という問いを投げかけ、物理的な距離と心の距離について考えるきっかけとする。展開前段部分では、児童にとって遠い他国の子どもにも、自分達と共通する点があることに気付いて理解を深められるよう、発問と問い返しを工夫する。また、多面的・多角的に考えを広げられるようにペアでの交流や全体での話し合い、板書の仕方を工夫する。さらに、「5歳以下の子が、5秒に1人亡くなっている」という事実を知らせ、考えさせる際には、写真の提示や発問の仕方を工夫し、日本に住む自分達と対比的に捉えさせる。展開後段部分では、生活経験や現在の思いを踏まえて考えを書けるようにする。ここまでの学習過程で計3回の書く活動を取り入れているのは、教材に自我関与させたり、自分と向き合わせて考えをもたせたりするためである。今回の終末では、絵本の読み聞かせを行う。学級の実態として「友達」という認識・感覚の狭さを感じることや、今すぐ海外に向けた大きな行動ができなくても「思いを寄せることはできる」ということ等、担任として思うことを児童も考えるきっかけになればと思い、価値を押しつけることなく余韻をもたせて授業を終えたい。

#### 3 研究テーマに迫るための手立て

【手立て①】 多様に考えを広げ、ねらいに近づけるための発問や問い返しの工夫。

【手立て②】 「自分事」として捉えさせるための教材や資料の提示の工夫。

【手立て③】 教材や自分に向き合わせるための書く活動の工夫。

#### 4 本時のねらい

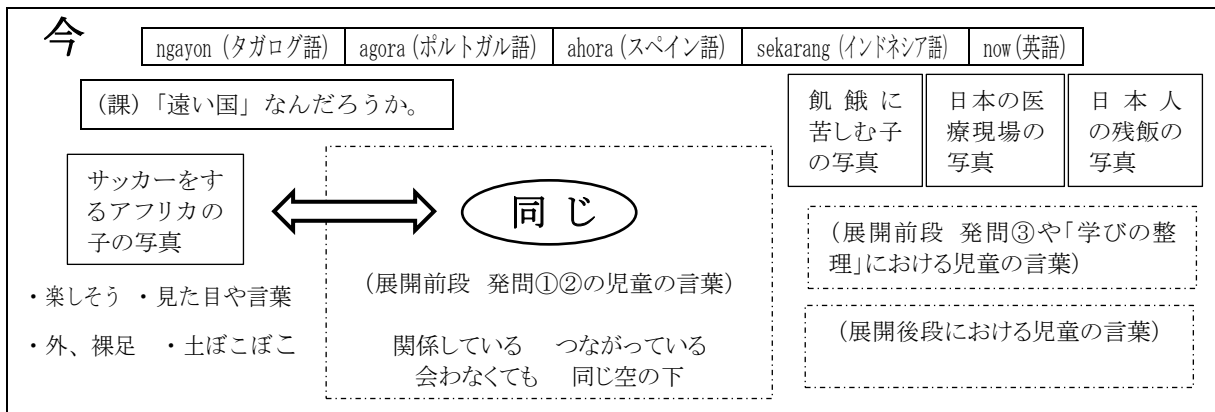
他国の人々や異文化について理解すると共に、他国の人と共感できることがあることに気づき、同じ空の下で生きている気持ちをもって、国際親善に努めようとする意欲を高めることができる。

5 本時の学習過程

学習活動・内容 ○発問 ◎中心発問 ・予想される意見	時間	形態	○指導上の留意点 評価 【手立て】
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>○どういう意味だと思う？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     ngayon (タガログ語)、agora (ポルトガル語)、ahora (スペイン語)、sekarang (インドネシア語)、now (英語)                 </div> <p>○この子ども達、「今」どういう気持ちなんだらう。皆との違いは何だらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しそう ・見た目や言葉が日本人と違う</li> <li>・外なのに裸足 ・グラウンドがぼこぼこ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     (課題)「遠い国」なんだらうか。                 </div>	<p>5</p> <p>(2)</p> <p>(2)</p> <p>(1)</p>	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>全体</p>	<p>○5か国語の「今」という単語を提示し、授業を方向付けるとともに、後半での「今この5秒間に」へつなげる。【手立て②】</p> <p>○サッカーを楽しむアフリカの子どもの写真を提示し、日本人と共通の「サッカーが楽しい」という気持ちと、環境が異なることに気付かせる。 【手立て②】</p> <p>○物理的に「遠い」ことは当然だが、あえて問い、立ち止まって考えさせる。【手立て①】</p>
<p>2 教材を活用し「遠い国」について考える。</p> <p>(1)範読を聞き、教材の内容をつかむ。</p> <p>(2)他国の子どもの心情を考える。</p> <p>○この子ども達は「今」どんな気持ちかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞して嬉しい ・一緒にいて楽しい</li> <li>・怒られたのか、喧嘩したのか…悲しい</li> </ul> <p>◎あなたと、世界中の子ども達、「同じ」「似ている」ことはどんなことだらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私にも宝物がある</li> <li>・悲しくて泣きたくなる時がある</li> <li>・一人より友達といると楽しい</li> <li>・地球で考えれば同じ場所に住んでいる</li> </ul> <p>(話し合う中で)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接「友達」ではないけれど…</li> <li>・会うことがなくても関係している</li> <li>・つながってると思えるかどうかが大変</li> </ul> <p>○十分な食糧や医療が無く、5歳以下の子が5秒に1人亡くなっている事実をどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・驚いたし、残酷で悲しい事実</li> <li>・日本はとても幸せな環境だと思う</li> <li>・何かできることはないか</li> </ul> <p>(話し合う中で)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほんの少しでもいいから食料が欲しい</li> <li>・死にたくない ・誰か、助けてください</li> </ul>	<p>28</p> <p>(5)</p> <p>(3)</p> <p>(12)</p> <p>(8)</p>	<p>全体</p> <p>ペア</p> <p>個人</p> <p>ペア</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>全体</p>	<p>○教材への関心を高めさせるため、範読前に挿絵や写真を電子黒板で提示する。 【手立て②】</p> <p>○教材理解と自我関与を目的として、ペアでの短時間の交流を図る。</p> <p>○机間支援する中で聞き取ったことを指名に生かす。また、挙手で発表させる。</p> <p>○自分の考えをもてるよう、書く時間を確保する。教材や発問の理解が難しい児童は集めて支援する。 【手立て③】</p> <p>○書けた児童から立って自由にペアを作り意見を交流するよう促す。</p> <p>○板書を話し合いに生かすため、書く位置を視点ごとに大まかに分ける。</p> <p>○他国の子どもと「友達か」「関係のある人か」「つながりがあるか」を問い返し、「同じ空の下」でのつながりを考えさせる。 【手立て①】</p> <p>○「5秒」を心の中で唱えさせる。</p> <p>○飢餓に苦しむ子の写真と、日本の医療現場や日本人の残飯に関する写真を提示し、対比的に考えさせる。 【手立て②】</p> <p>○記述を意図的な指名に生かす。 【手立て③】</p> <p>○「この子ども達は『今』どんな思いで過ごしているか」を問い返し、心情を理解させる。</p> <p>○本時の課題を再度問い、学びを整理する。</p>

<p>3 国際理解について自分の考えを深める。</p> <p>○このお話から学んだことを踏まえて、これまでの自分・これからの自分について考えて書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠いと思いついていたけど、つながりがある人だと考えることが大切。</li> <li>・ご飯を残してしまうことが多かった。食べ物や命を大切にしていきたい。</li> <li>・違う世界だと思わずに、皆で考えて、自分にできることをしていきたい。</li> </ul>	8	個人  全体	<p>○広く問い、他の内容項目の視点に立った考えも受容し、児童それぞれが本時の学びを価値付けられるようにする。</p> <p style="text-align: right;"><b>【手立て①】</b></p> <p>○なかなか書けずにいる児童を集めて対話し、自分の考えをもてるよう支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>同じ空の下で生きている気持ちを持ち、国際親善に努めようとする意欲を高めることができているか。（記述、発表）</p> </div>
<p>4 絵本の読み聞かせを聞く。</p>	4	全体	<p>○教室前方に児童を集め、「ともだち（谷川俊太郎）」を読み聞かせる。何も問わず、余韻をもたせて授業を終える。</p>

## 6 板書計画



【資料4】本論で挙げた「全体での対話」以外の「対話的な学び」の場面

①教材文との対話（教師の範読）



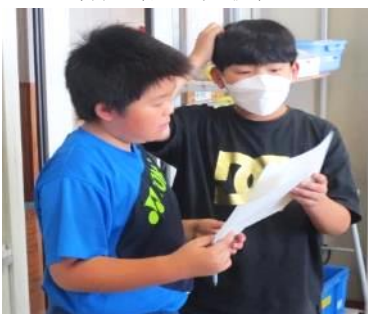
範読は、児童に考えさせたい部分の「抑揚」と「間」、範読後の「間」を大切にします。

②ペアでの対話（固定ペア）



中心発問以外の発問では、記述をせずに短時間の固定ペア（席が縦・横）での対話を取り入れる。

③ペアや少人数での対話（自由交流）



じっくり考えさせたい中心発問は、個で考える記述の時間をとった後、書けた児童から立ち上がって自由に2～3人組を作り、数分間の交流をする。「似ている」「自分とは違った考えだ」と思った点を相手に伝えた上で、「なるほど」と思った点は簡潔な言葉でメモをすることとしている。

④模造紙・付箋紙やタブレットを使った対話



短時間でより多くの意見に触れ、比較・共有させる場合、模造紙・付箋紙やタブレットは効果的だ。

⑤自分との対話



書く＝自分と向き合う時間であり、自分との対話は欠かせない時間である。

⑥歴史上の人物との対話



高学年は歴史上の人物やアスリートの教材が多いが、遠い存在に感じる児童も多い。人物に関する数分の映像を、一緒に会話をしながら視聴することで親近感が湧くようである。

⑦身近な大人との対話



「勤労、公共の精神」の終末で「実際、大人はどんなやりがいをもって働いているか」という疑問が挙がり、事務室でインタビュー。「身近な人の知らない一面」は、児童の印象に残る。



【資料5】「書く終末」での児童の記述と、教師のコメントの例

1	駅前広場は誰のもの (規則の尊重)	なぜきまりがあるのか。それは皆が気持ちよく生活しやすいように。その決まりを守ると、そこに住む人全員が嫌な気持ちにならずに生活できる。 (コメント) 皆が気持ちよく生活するためにきまりがあって、それを守っていくことが大切なんですね。
2	いつも全力で (希望と勇気、努力と強い意志)	イチローさんは、もった目標、なりたかった自分になった。周りの目を気にせず「なりたい自分」に突き進んでいった。イチローさんのように、私もやりたいことは目標に向かってどんどん突き進みたいと思った。 (コメント) 突き進もうと決めたら周りの目を気にしない勇気、大事かもしれないね。
3	見えた答案 (正直、誠実)	お母さんに「宿題終わった？」と聞かれて「うん」と言った。「自分の力で？」と聞かれて「うん」と言った。本当は、少し答えを見てしまった。今でも、モヤモヤしています。 (コメント) 具体的に書きましたね。「モヤモヤ」って、残ってしまうんだね。
4	お父さんは救急救命士 (勤労、公共の精神)	正直、仕事を「やりたくない」という気持ちがあったけど、自分の将来のため、誰かのために、「お金のもらえない『働く』」も頑張りたい。 (コメント) 働く＝お金だけじゃないんだね。自分・人のために、さらに頑張っていけるといいね！
5	どんな感じかな (公平、公正、社会正義) ※自作教材	目が見えなくても、耳が聞こえなくても、その人が「幸せだな」と思うなら、それはもうその人の「普通」その人の「幸せ」なんだと思う。 (コメント) 人それぞれの普通があるね。「幸せ」だと感じることは素敵なことだね。
6	同じ空の下で (国際理解、国際親善)	前までの自分は、国が遠ければ関係ないと思っていた。でも今は違う。同じ人間なので、小さな事を一步一步やって、いずれは大きな一歩にしたい。 (コメント) この授業で、大きな気持ちの変化があってよかったです！遠くても、「関係がある人」なんだね。
7	くずれ落ちた段ボール箱 (親切、思いやり)	お母さんと一緒に買い物に行った時、目の前で、おばあさんのカゴから物が落ちた。拾おうとした。拾えなかった。 (コメント) その時のことをしっかり覚えてることが素晴らしい。きっと、〇〇さんなら次はできますよ。
8	卵焼き (家族愛、家庭生活の充実)	今までは親に「こういう所をやめてほしい」とばかり思っていたり言ったりしていた。今日の授業で、自分が思ってるより家族に大切にされて、支えられていると感じた。 (コメント) お家の人はたくさんの愛情をもって支えてくれているね。「ありがとう」の気持ちを大切にしていこう。
9	ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ (真理の探究)	新たなことに踏み込むのは覚悟が必要だし、それにやりがいを感じなければなおさらできないから、新しいことをするのはすごい。このような(教材文)人たちのことを忘れずに挑戦していきたい。 (コメント) 踏み込んだ数が多ければ多いほど、やりがい生まれるかもしれないね！
10	そういうものに私はなりたい (よりよく生きる喜び)	ゴールなんて無い。高い壁を乗り越えた時に「カギ」をゲットするのだと思う。勉強は何にでも役に立つ。絶対に無駄にはならない。必ずカギがある。カギは心の中で積み重なって、一つのゴールができる。 (コメント) とても素晴らしい考え方だと思います。大事なものは「カギ」なんだね。ずっとずっと先のゴールに向かって頑張っていこう。

【資料6】3点書き出しの例

「いままでは～（過去）、きょうは～（本時）、これからは～（未来）」  
 終末は自由に書かせるが、書き方に悩んでいる児童も多かったため、1学期はラミネートで書き出しの例を毎回提示した。机間支援で、特に「今日どんなことが大切だと思った？」と声をかけながら「きょうは～」から書き始めてみるよう促すとスムーズに書ける児童が多い。  
 過去・現在・未来の自分を見つめさせ、実生活と往還させていく。



【資料7】模造紙と付箋紙の活用例

①「これって権利？義務？」（規則の尊重）



②遠足の子供たち（善悪の判断、自律、自由と責任）

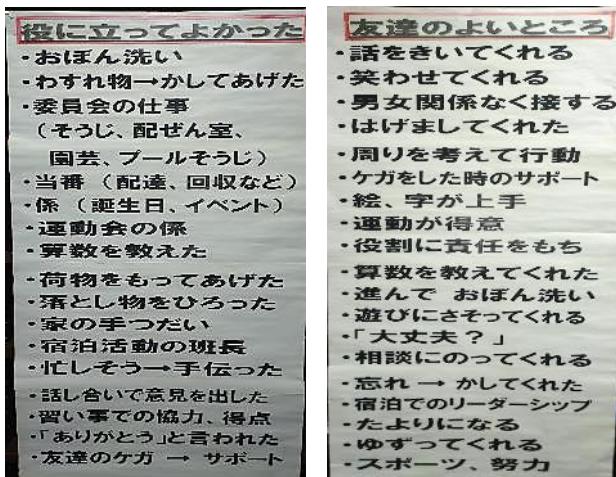


③「ノンステップバスでのできごと」（親切、思いやり）



展開後段で付箋紙を活用し、模造紙に貼る際に、「似ている意見の近くに貼る」と設定しておくことで、必然的に多くの意見を見ることになる。「～って書いてあるから、こちらへんじゃない？」「〇〇さんと□□さんの意見、似てるからこのあたりだよ。」と、自然に対話が始まる。操作する活動は能動性を生む。  
 問い方としては2点あり、生活経験を問うもの(①「権利と義務のセット、例えば」、③「親切にできたこと・してもらったこと 知らない人 Ver」)、内容項目に関するキーワードについてイメージを導入と同様に問い、変容をみるもの(②「自由とは」)が挙げられる。

【資料8】事前アンケートの活用例



①左「くずれ落ちた段ボール箱」（親切、思いやり）  
 ②右「名医、順庵」（相互理解、寛容）  
 授業の数日前の朝の会で数分のアンケートをとる。「～経験は、ありますか？」の1問である。生活経験が鍵を握る教材だと考えた時には、事前に思い返しておく数分をとることがかなり効果的である。  
 このアンケート結果一覧は、導入の対話の中で教師が1～2分程で読み上げる。わずかな時間で生活経験を想起させた上で範読に入ることによって、児童は「自分事」に置き換えて、教材と実生活を往還して考える上に、他の友達の経験を「同じ経験が私にもあった」と考えることができるので、展開後段が充実する。